

## Broaden your horizons ～さあ、視野を広げて!～

こんにちは。メディセレの児島恵美子です。

先日、医療産業イノベーションフォーラムに参加しました。

その中で大きな変化を感じたのは、今まで医療の分野である意味タブー視されていた「費用対効果」というキーワードが随所に出てきた点です。医療はお金の匂いがすることをすごく嫌がりますが、資金がなければ事業の継続は成り立ちません。非常にバランスの難しい分野です。しかし、厚生労働省も「費用対効果」という観点を前面に出している点に、医療費問題の重さを感じました。

1960年代は人口ボーナスでした。人口ボーナスとは、人口構成の中で生産活動に従事する年齢層(15～64歳)の割合が多い状態、つまり子供や老人が少ない状態のことを指し、この時期は高度成長が期待できます。一方、2060年に日本は人口オーナスになると推計されています。オーナスとは「重荷」という意味で、少子化で生産年齢人口の補充ができない、人口ボーナスの逆の概念です。その結果、経済を支えきれず、国の財政が圧迫されます。60年までゆるやかな経済下降が起こっていくのですが、悲観していても仕方ありません。これをチャンスと捉え、今までとは違う視点、やり方を共に模索していきましょう。

Medisere (メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子